

## 都市型マンションにおける家事空間のモジュールの再考 — 男女平等な家事分担の為の住宅計画に関する研究 —

宇津宮舞\*・前田修吾\*

九州女子大学家政学部人間生活学科

北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2015年5月29日受付、2015年7月9日受理)

### 要旨

女性の社会進出に向けての政府の働きかけなど、女性を取り巻く様々な環境に関する研究、提案は数多く発表されている。その多くは、ジェンダーや社会的背景、就労規則、結婚、育児、文化的背景など文化や社会的環境、或は属性や歴史的環境に関する研究、発表である。

しかし、男性が実際に女性に成り代わり女性の行なってきた家事労働などの作業を行なうとして、現代の住宅環境はその事に適合できるかどうかは研究されていない。様々な人間工学的な見地から造り出されている現代住宅の寸法やモジュールは、家庭内での家事作業を女性が行なうと言う前提で導きだされている。当然ながら、体格の異なる男性を基準とした人間工学は異なった環境を設定するはずである。

今回の研究は、家事分担の現状を明らかにし、現代住宅の平均的な計画を取り上げ、その計画が現状に適合しているか否かを確認することにある。

キーワード：家事空間、設計計画、ジェンダー、家事分担、夫婦共働き

### 1. はじめに

女性の社会進出の促進と増加に伴って、少子化や子育て支援などが社会問題となっている。背景に、家事と育児を女性、若しくは母親が行うという、根深い差別意識がある事は周知の事実である。夫が家事に参加しない理由は複数考えられるが、文化的背景、長時間労働、疲労、やる気、社会通念などこれまで多くが分析、発表されている。今回、過去の研究例が少ない、家事空間の環境に注目し、男性が家事を行うという前提に立った場合の住宅設計の現状分析を行い、問題点を明らかにしてみたい。

### 2. 現状分析

現状分析の為のデータとして、NHK放送文化研究所が2012年に行った、『「結婚」や「家事分担」に関する男女の意識の違い—ISSP国際比較調査(家庭と男女の役割)・日本の結果から—』<sup>(注1)</sup>と2010年に行った、『日本人の生活時間・2010』<sup>(注2)</sup>、そしてJGSSの調査結果から『JGSS-2008の日本版 General Social Surveys 基礎集計表・コードブック』<sup>(注3)</sup>を用い、

男性、或は夫の家事参加に関する意識と現状を数値的に整理してみる。

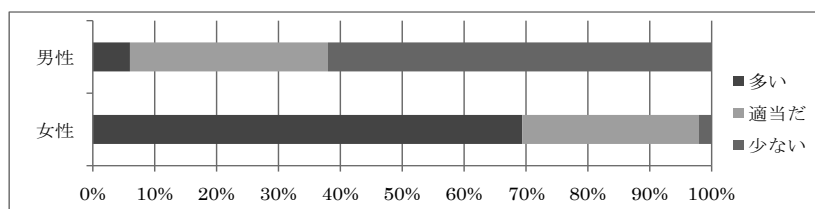
## 2-1. NHK放送文化研究所の調査から

NHK放送文化研究所が参加している国際比較調査グループISSP (International Social Survey Program) では、毎年テーマを設定して、世界共通の質問文で世論調査を行っている。2012年の調査テーマは「家庭と男女の役割」であり、その中の日本の結果を報告したものを使用する。ここでは、家事分担や結婚・子どもを持つことについての意識など全体的な調査結果が紹介されている。この中から、結婚した女性の幸福感と家事分担に対する意識に注目した。調査の概要は以下のとおりである。

- 調査時期：2012年11月24日～12月2日
- 調査方法：配布回収法
- 調査対象：全国の16歳以上の男女
- 調査相手：住民基本台帳から層化無作為2段抽出の1800人（12人×150地点）
- 調査有効数（率）：1212人（67.3%）

表1は、配偶者と生活している人の家事分担の公平感を、男女別にまとめたものである。この表から、家事における負担が多いと感じる人は男性6%、女性68%、適当だと感じる人は男性32%、女性28%、少ないと感じる人は男性62%、女性2%であった。

表1 家事分担の公平感（単位：%）



このことから、家事分担の割合に関して、女性の不公平感がかなり強いことが明らかであり、男性の家事への参加が極めて少ない事が読み取れる。前述の通りこの表は、既婚者を対象としたデータであるため、結婚後の家庭内では家事のほとんどが女性によって行われていると理解する事が可能である。

表2 夫が雇用者である妻の就業状態別世帯数（単位：％）

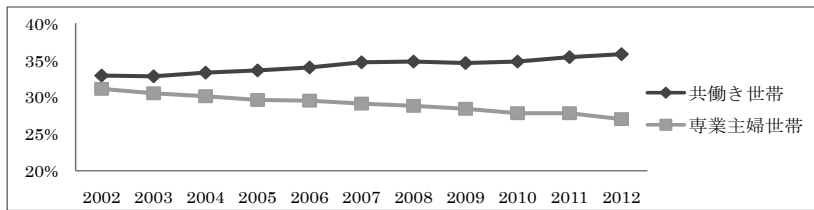


表2は、総務省統計局の資料<sup>(註4)</sup>より抽出し、作成したグラフである。これにより、2012年時点で夫婦共働きの世帯は35.8%となっており、年々増加していることが分かる。それでもなお、家事の多くを担うのは女性であり、女性が生活するうえで肉体的、精神的に多くの負担を背負っていることが読み取れる。以上のことから、男性が家事に積極的に参加することで、女性の不公平感を軽減させる可能性が考えられる。

また、2010年の調査テーマ「日本人の生活時間・2010」は、人びとの1日の生活を時間の面からとらえ、生活実態にそった放送を行うことに役立てるためにNHKが実施したものである。調査は、睡眠や仕事など28に分類した行動と在宅状況について、2日間にわたって15分単位に記入してもらったものである。この中から、家事に費やす生活時間について着目した。調査概要は以下のとおりである。

- 調査対象日：第1回 2010年10月14日（木）、15日（金）  
第2回 2010年10月16日（土）、17日（日）  
第3回 2010年10月18日（月）、19日（火）  
第4回 2010年10月23日（土）、24日（日）
- 調査方法：配付回収法によるプリコード方式（15分刻みの時刻目盛り日記式）
- 調査対象：全国10歳以上の国民
- 調査相手：住民基本台帳から層化無作為2段抽出  
7,200人（12人×150地点×4回）
- 有効調査相手数（率）：4,905人（68.1%） ※1曜日でも有効な回答のあった人

表3 家事の行為者率（成人男性・女有職者・専業主婦）（単位：％）

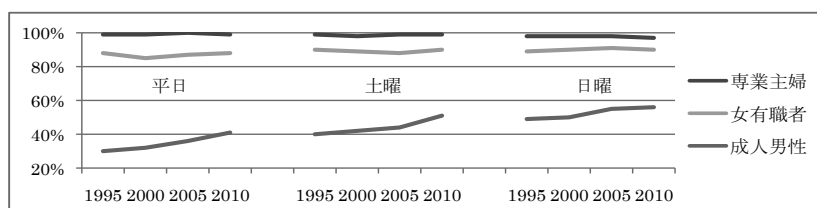


表3は、対象者を成人男性、女有職者<sup>(注5)</sup>、専業主婦の3種に分類し、それぞれが家事を15分以上行ったかどうかをまとめたものである。2010年を見ると、専業主婦については平日99%、土曜99%、日曜97%、女有職者については平日88%、土曜90%、日曜90%、成人男性について平日41%、土曜51%、日曜56%が何らかの家事を行っていた。男性の行為者率は年々増加しているが、女有職者と比較しても極めて少ないことが分かる。

## 2-2. JGSSの調査から

JGSS-2008の調査は、対象者が4220人、男性47.1%、女性52.9%、年齢層は20代から80代まで表4の様な配分となっている。

表4 調査年齢層（単位％）

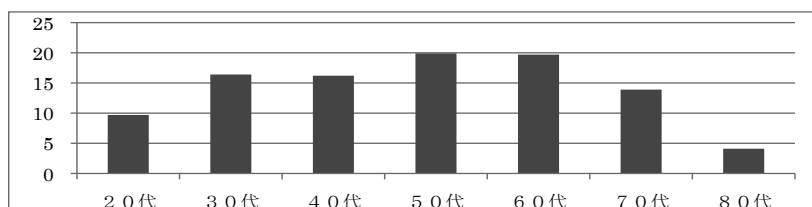
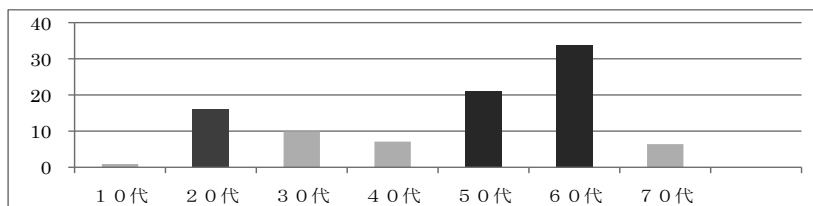


表5は、就労に関するデータの中の、「離職年齢」の比較である。この表から、離職年齢に二つのピークがあり、20代において一つのピークが存在する事がわかる。厚生労働省の発表<sup>(注6)</sup>による女性の初婚の平均年齢が、2008年では28.5歳であった事を重ね合わせると、この離職のピークが女性の結婚年齢と一致している事がわかる。

なおこのデータは、「最後に主な仕事をやめた年齢」であるため、再就職前提の離職は含まれていない。また不就労の理由の53.1%が「家事」を上げており、仕事（正規雇用）を辞めた女性の多くが「専業主婦」となった事も読み取れる。

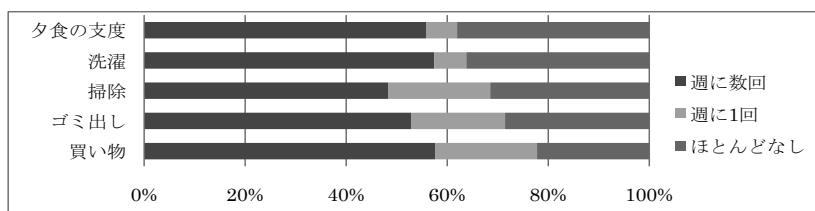
表5 離職年齢（単位%）



続いて、家事分担の実情を整理してみた。表6は、JGSSの中の家事に関連した行動だけを拾いだして整理したものである。結婚し同居している率は72.2%であり、多くの数値が結婚家庭での実情である事に加えておく。

この表からは、「夕食の支度」と「洗濯」を「ほとんどなし」と答えた人が男女合わせてそれぞれ37.7%、36%と高い数値を出している事がわかる。一方、「掃除」、「ごみ出し」、「買い物」はほぼ同数で「ほとんどなし」と答えた率が20%台にまで低下し、「週に1回程度」行なっている人が増加している。複数の要因が考えられるため断定は出来ないが、表1で家事のほとんどを主婦が行なっている現状を考慮に入れると、「掃除」、「ごみ出し」、「買い物」の家事を行なう、或は、手伝う夫は多少見られるが、「夕食の支度」と「洗濯」においてはほぼ主婦のみで行い、ほとんどの夫が行なっていないという実態がこの表でも見えている。

表6 家事を行なっている頻度（単位%）



これまでの分析で、家事分担の不公平さが確実なものとなり、働く女性においても同様であることが明らかとなった。買い物や掃除、ごみ出しに比較して、夕食の支度や洗濯の大部分を女性が担っており、そのことを、女性が不公平と感じている事実も確認できた。結婚を機に退職し、専業主婦になる女性もいるが、20代で離職しても非正規雇用を含む就業率は年々増加し、働く女性が増え続けていることも事実である。以上の調査から、男性の参加率が低い夕食の支度や洗濯などの家事へ参加する頻度を、建築的アプローチから改善し、積極的に参加させることで、女性を感じている家事に対する不公平感を緩和できる可能性があり、働く女性の子育て支援を、設計の側面から援助する必要性が見えて来た。

### 3. 都市型マンションにおける家事空間の現状

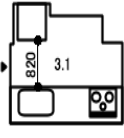
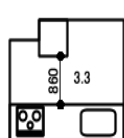
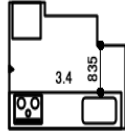
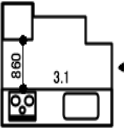
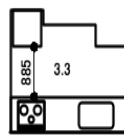
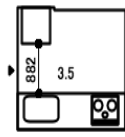
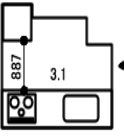
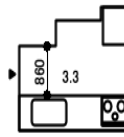
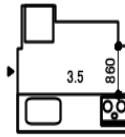
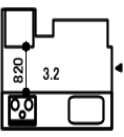

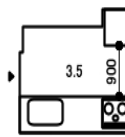
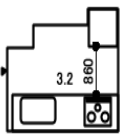
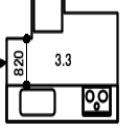
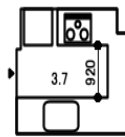
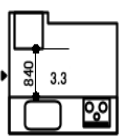
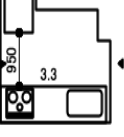
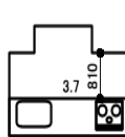
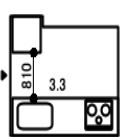
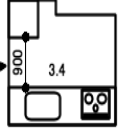
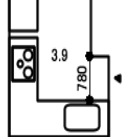
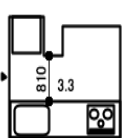
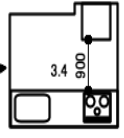
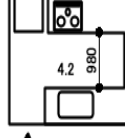
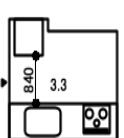
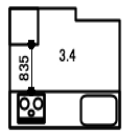
家事空間の設計に注目し、男性が家事を行うという前提に立った住宅設計が、従来の住宅設計とどのような違いがあるか、分譲マンションの販売目的の広告に出ているプランを元に検討した。2010年に竣工した分譲マンションの平均専有面積は86.6m<sup>2</sup>(注7)で面積は徐々に拡張しているが、その間取りの内容はディベロッパ―主体で決まっている。そこで無作為に30戸の間取りを比較し、主に家事空間を中心とした計画内容を調査した。

#### 3-1. 調査概要

マンション販売サイトから、東京23区内の山手線の外側で販売中の家族向け間取り30戸を無作為に抽出し、その間取りをトレースして内容の比較を行なった。間取りの専有面積は最小67.00 m<sup>2</sup>、最大95.68 m<sup>2</sup>で、平均床面積は77.12 m<sup>2</sup>である。間取りの形式はいわゆる3LDKから4LDKの家族向けで、ワンルームは存在していない。

その中から、家事の参加率が最も低かった「夕食の支度」に直接関連する、台所空間の調査を行なった。調査方法は、30戸の間取りの台所部分だけを抽出し、面積、キッチンセットの種類と大きさ、作業スペースの3つを要素として図面を単純化し、整理、比較することで行なった。30戸の間取りの中で、台所空間だけを明確に区切って抽出できた計画は26戸あり、その内訳は表7の通りである。

表7 26戸の台所の内訳

	面積 3.1畳 作業幅 82.0cm キッチンセット長さ 2.55m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.3畳 作業幅 86.0cm キッチンセット長さ 2.55m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.4畳 作業幅 83.5cm キッチンセット長さ 2.55m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm
	面積 3.1畳 作業幅 86.0cm キッチンセット長さ 2.50m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.3畳 作業幅 88.5cm キッチンセット長さ 2.65m シンク位置 30cm コンロ位置 15cm		面積 3.5畳 作業幅 88.2cm キッチンセット長さ 2.45m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm
	面積 3.1畳 作業幅 88.7cm キッチンセット長さ 2.50m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.3畳 作業幅 86.0cm キッチンセット長さ 2.60m シンク位置 30cm コンロ位置 15cm		面積 3.5畳 作業幅 86.0cm キッチンセット長さ 2.65m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm
	面積 3.2畳 作業幅 82.0cm キッチンセット長さ 2.50m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.3畳 作業幅 86.0cm キッチンセット長さ 2.45m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.5畳 作業幅 90.0cm キッチンセット長さ 2.60m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm
	面積 3.2畳 作業幅 86.0cm キッチンセット長さ 2.40m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.3畳 作業幅 82.0cm キッチンセット長さ 2.50m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.7畳 作業幅 92.0cm キッチンセット長さ シンク位置 60cm コンロ位置 15cm
	面積 3.3畳 作業幅 84.0cm キッチンセット長さ 2.45m シンク位置 30cm コンロ位置 15cm		面積 3.3畳 作業幅 95.0cm キッチンセット長さ 2.40m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.7畳 作業幅 81.0cm キッチンセット長さ 2.70m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm
	面積 3.3畳 作業幅 81.0cm キッチンセット長さ 2.40m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.4畳 作業幅 90.0cm キッチンセット長さ 2.40m シンク位置 30cm コンロ位置 15cm		面積 3.9畳 作業幅 78.0cm キッチンセット長さ シンク位置 15cm コンロ位置 15cm
	面積 3.3畳 作業幅 81.0cm キッチンセット長さ 2.50m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 3.4畳 作業幅 90.0cm キッチンセット長さ 2.40m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		面積 4.2畳 作業幅 98.0cm キッチンセット長さ シンク位置 15cm コンロ位置 15cm
	面積 3.3畳 作業幅 84.0cm キッチンセット長さ 2.45m シンク位置 30cm コンロ位置 15cm		面積 3.4畳 作業幅 83.5cm キッチンセット長さ 2.50m シンク位置 15cm コンロ位置 15cm		

### 3-2. 台所の概要

台所の広さは約 3.1 畳から約 4.2 畳までに集約されているが、そのほとんどが 3.3 畳の周囲に集中し、平均面積は 3.40 畳であった。キッチンセットの種類は、L 型が 1 戸、U 型が 2 戸以外の 23 戸が直線型で、その 100% がペニンシュラ型の対面キッチンスタイルであった。直線型キッチンセットの奥行きは 65cm、長さは 2.4m から 2.7m までであり、平均値は 2.51m。シンクは端部から 15cm か 30cm のいずれか、ガスコンロは全て端部から 15cm の位置に配置されていた。作業スペースは、キッチンセットと背後の壁、柱 (P S)、冷蔵庫 (65cm × 65cm と仮定) のいずれかの内で最も狭い部分で測定し、その平均値は 86.1cm であった。断面図は存在していないため、キッチンセットの高さを 85cm、奥行きを 65cm と設定し、換気扇までの高さをカウンターから一般的な 80cm と設定した。これらの平均値から都市部のマンションの、キッチンにおける平均的プランを作成した。

### 3-3. 居間食堂との関係

台所での作業性が目的では有るが、居間食堂との面積や連続性も一応確認しておいた。居間食堂の面積は約 11.00 畳から約 14.5 畳の範囲にあった。平均面積は 12.7 畳であるが、全体の 72% のプランが、12.9 畳までに納まっていた。居間食堂の面積は、住戸面積が 83㎡程度まではほとんど変化しないで平均値の前後に合ったが、83㎡を超えたプランでは多少変化が現れて、14 畳台や 17.3 畳というプランもあった。

台所との関係は既に述べた様に、100% が対面型キッチンの配置で、食堂とは正面、又は側面で連続しており、カウンター越しに配膳や片付けがし易い関係が成立していた。その意味では、台所作業の手伝いがし易い条件が成立していると言える。

一方、台所の入り口が食堂側にあるプランは 3 戸だけで、残りは全て参考プラン (図 1) の様に、側面に回り込んだ廊下側から入る計画になっている。従って、食堂から台所へのアプローチは廊下経由で回り込まざるを得ず、行動し易さは、その廊下の幅と台所の入り口の幅で決定されてしまっている。対面キッチンで見たいは開放性が高いが、動線計画で見ると決して開放性が高いとは言えない計画であることが分かる。



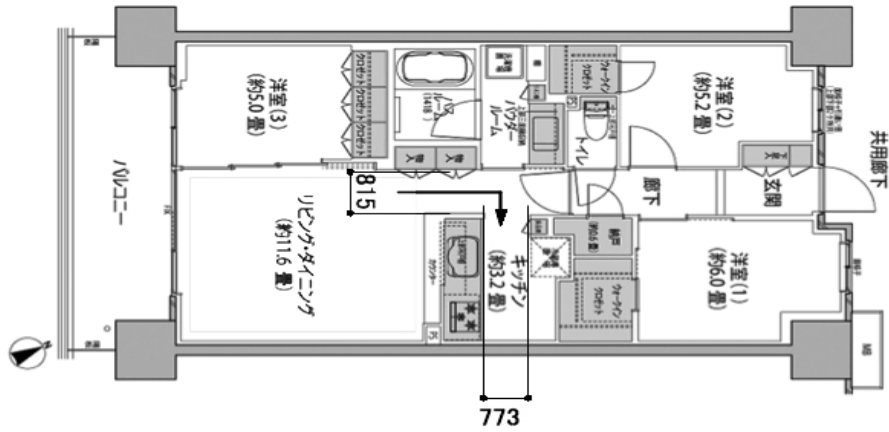


図1 参考マンションプラン

### 3-4. 作業性の確認

台所で作業する様子を図面上で再現する為に、人体の大きさを設定した。身長を2014年度の平均身長から、女性157cm、男性174cmとし、体形をウエスト寸法で設定し、女性は約71cm、男性は約85cm<sup>(注8)</sup>とした。そこから人体寸法表<sup>(注9)</sup>に則って男女の人体の体形を作成した。この人物を平均的プランの台所に配置し、平面図と断面図を元に作業風景をシミュレーションした。女性一人での作業シミュレーション例が図2である。

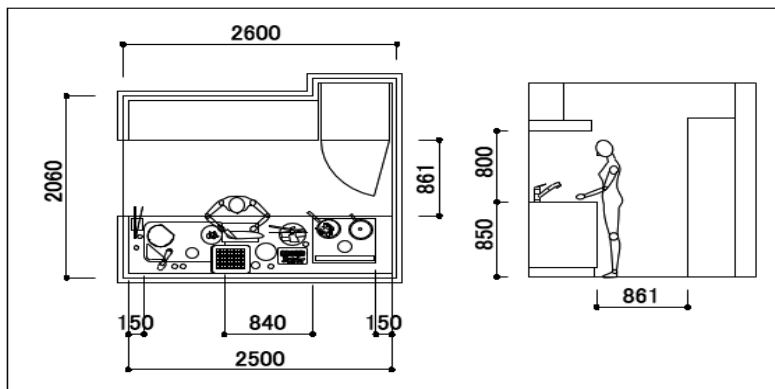


図2 女性による作業シミュレーション

### 3-5. 分析

#### 3-5-1. 夫婦と一緒に作業する場合

夫の家事では、夫婦で一緒に主婦の手伝いという場面が想定されるため、多くの場合夫婦二人が台所に入る、または出入りが発生すると考えるべきである。図3はその状態をシミュレーションした図である。ここにおいて、大きく以下の5点が問題として見えて来る。

1. コンロが、端部から 15cm の位置に設置されているため、中央部の作業台を二人で共有せざるを得ない。
2. シンクが、端部から 15cm の位置に設置されているため、中央の作業台に水切りかご、食器類、まな板、ボウル、洗剤類など多くの備品が集中する。
3. 作業幅 86cm の場合、男性が立つと背後を女性を通ったり、冷蔵庫の扉を開けたりする作業がしにくい。
4. キッチンカウンターの上 80cm の換気扇高さでは、男性の頭に当たる。
5. 中央部の作業台幅は 84cm あり十分だが、そこに全ての作業が集中している。

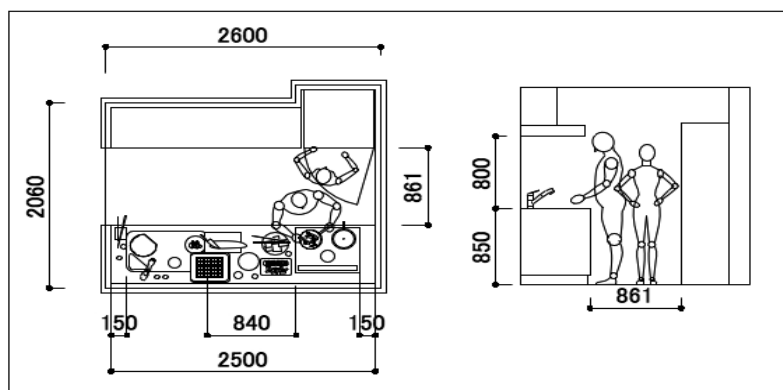


図3 夫婦での作業シミュレーション

この5つの問題点から、このキッチンのレイアウトが、主婦単独での作業を前提として設計されている事が分かる。

#### 3-5-2. 日本建築学会の基準との照合

建築設計資料集成（日本建築学会編）<sup>(注10)</sup>の「単位空間」には「調理」が掲載されている。それによると、調理台の高さは 80cm から 90cm とあり、作業幅の寸法は、95cm から 120cm と読み取る事ができる。この寸法は、「作業している人の後ろを他の人が通り抜ける」<sup>(注11)</sup>という前提から定義されており、作業に 35cm 必要で、通り抜けるに 60cm 必要なので 95cm という数字が出て来ている。また、120cm では、「一人で作業するには離れすぎる」<sup>(注12)</sup>との

注意も記述されており、以上を整理すると二人が作業するには 95cm の空きが適当であると判断出来る。

また、レンジフードの高さは燃焼器具面から 1 m 以内<sup>(注13)</sup>とされているが、絶対的な高さの指定は特にされていない。しかし、平均的な女性が、常態で手が届く範囲が、床から 185cm 程度<sup>(注14)</sup>までとされており、85cm のキッチンセットの天板高さから 1 m の空きが可能であると判断出来る。

また、キッチンセットの作業台の幅の基準も定義されており、それによるとシンクとコンロの間の作業スペースは 75cm から 80cm で、この数値だけは今回の 84cm という寸法はクリアしている。シンクから端部までの空きは、45cm から 50cm となっている。なお、コンロから端部までの空きは確保されていない。

以上の寸法体系から作り出されたキッチンセットを今回の平均値の計画に当てはめて、基準寸法に叶ったレイアウトを試みたのが、図 4 である。

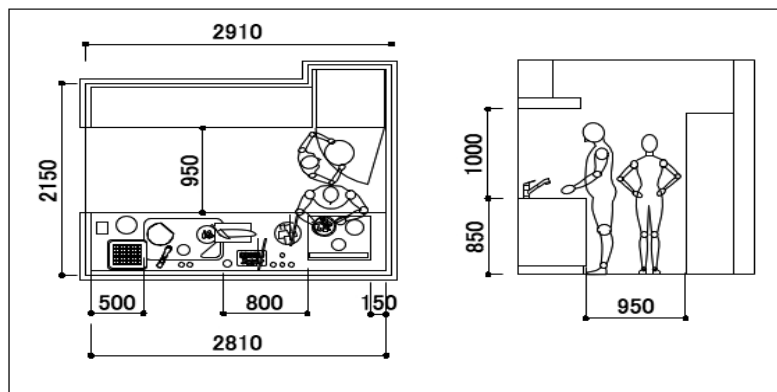


図 4 建築資料集成の基準に基づいた台所のレイアウト例

この時、台所の面積は 3.98 畳で今回の 30 プランの範囲内での面積である。またキッチンセットの幅は 281cm で平均値の 250cm より 31cm 広がっている。但し、資料集成の基準ではコンロの横の空きは 0cm になっているが、ここでは一般販売されているシステムキッチンの最小値 15cm を確保しているため、仮にこの空きを 0cm とすると幅は 266cm となり、台所面積は 3.78 畳となる。しかしキッチンメーカーの設計基準を幾つか確認すると、カウンター強度の問題で、15cm 程度の幅が端部に必要となっているため、今回は空きを確保して検討を進めるものとする。

### 3-5-3. 夫婦で一緒に作業するレイアウト例

大人二人が作業をする前提で、図3の建築設計資料集成の基準に基づいた台所のレイアウトと部屋面積とキッチンセット幅を変えずに、二人での作業を前提とした提案を加えてみる。

1. コンロを端部から 25cm に配置して、鍋や食材、ボウル、食器などを置けるスペースを端部に確保し、かつコンロ端部での作業にゆとりを持たせる。
2. シンクを端部から 45cm に配置して、水切りかごを端部に寄せ、食器や洗剤類なども置けるスペースを確保する。
3. 作業幅は 95cm とし、男性の背後を女性が通り抜け出来るようにする。
4. 換気扇の高さを、男性の平均身長程度の床から 175cm、キッチンセットの上 90cm とする。

その結果が図5である。シミュレーションの範囲では、夫婦が同時に作業できる余裕が現れている。台所の面積は 3.98 畳である。わずか 0.58 畳の増加であるが、夫が加わっても、作業が成立しやすいことがわかる。また、コンロ側の空きを確保した事で、加熱調理時の一次置き場が確保され、シンクとコンロの二手に分かれて同時並行で作業するゆとりが生まれている。以上から、台所で夫婦二人が同時に作業をするためには、大きく二つの視点で計画する必要があることが分かる。一つは背面の作業幅 95cm の確保で、この幅によって二人が接触する事無く、また冷蔵庫の扉などをあけるに際しお互いに邪魔にならない状態を計画する事ができる。二つ目はキッチンセットのレイアウトである。多くを占める直線型で考えたとき、カウンター中央部に作業の中心を持って来てそこで全ての作業をするような広いスペースを設ける計画と、カウンターの両サイドに適切なスペースを設けて、作業を分散させる計画とが考えられるが、二人で作業をすることを前提にすると、スペースを分散させ、両端部にも作業スペースを確保し、作業を平行して行なえるように配置する事が有効である。このシミュレーションからも、今回のマンションのキッチンセットのレイアウトは、女性が一人で作業することを前提としたレイアウトであったことが明らかである。

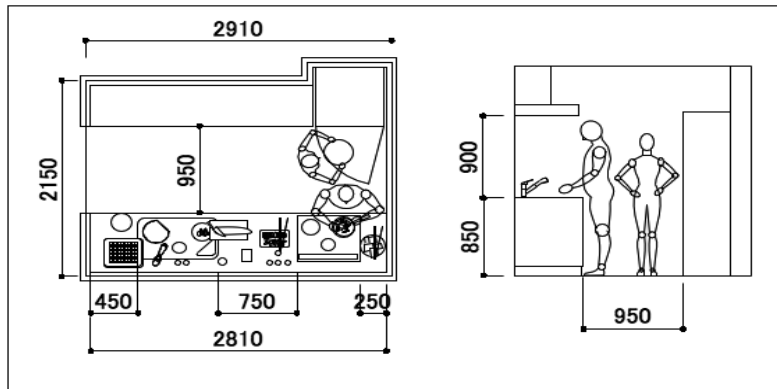


図5 問題を解決した台所のレイアウト例

#### 3-5-4. 考察

以上から、都市部における家族向けマンションの平均的な広さやレイアウトの台所では、夫が台所作業を手伝おうと思っても、不都合が発生する実態が明らかとなった。男性が積極的に調理に参加する為には、男性を対象とするか、夫婦共同で料理をする前提での台所が考慮されるべきであり、狭小の都市型のマンションにおいては現状では不十分な計画が多く有る事が分かった。今後、夫が家事に積極的に参加してゆく為には、特に都市部のマンションにおいて、その事を前提とした住宅の設計・計画が検討されるべきであると言える。

#### 4. 結論

これまで、男女平等な家事分担という視点で台所を中心に分析して来たが、概ね以下の様な知見を得た。

- ①家庭内では家事のほとんどが女性によって行われていることから、女性が家事分担の割合が男性より多いと感じており、不公平に思っていることが分かった。また、この不公平感は、結婚に対して幸福感を抱いている割合が男性よりも少ないことにも関係があると思われることが分かった。
- ②家事分担の割合の多さから20代で正社員としての仕事を離職し、改めてパートで再就職する既婚女性が増加していることが分かった。生活する上で肉体的、精神的な負担を女性がより多く背負っている実情が見えてきた。
- ③家事に参加している男性を女性と比較すると、それに携わる時間が極端に短く、また、家事を種類ごとに分類すると、夕食の支度が最も参加率が低いことが分かった。
- ④夕食の支度という視点で家事を分析した結果、男性が家事を手伝う上で、以下のような問題

点が見えて来た。

1. キッチンセットの全体幅が平均で 250cm、中央の作業台幅が 84cm であるが、シンクとコンロの両端部の空きが共に 15cm しかないため、作業スペースがキッチンセットの中央に集中している。そのため、全ての作業や物品がそこに集中せざるを得ない。
2. キッチンセットと背面の収納等との空きである作業スペースは 86.1cm しかなく、作業をしている背後を人が通り抜けしにくい。

また、男性が単独で調理するとした時、以下の問題点が見えて来た。

3. 換気扇の高さが、床から 165cm であるため、男性の頭に当たってしまう。

以上の問題点を踏まえて男性が家事を手伝うと言う前提に立った時、各部の寸法は以下のような数値とする事が望ましい事が、建築設計資料集成、及びシミュレーションの結果から提案できる。

• キッチンセットの高さ	85cm
• シンクと端部との空き寸法	45cm
• コンロと端部との空き寸法	25cm
• シンクとコンロとの離れ寸法	75cm
• 人が動く作業スペースの寸法	95cm
• 換気扇の作業面からの高さ	90cm

- ⑤また、今回取ったサンプルは、全て対面キッチンの計画であったが、この計画はキッチン内部に一人、対面側で配膳などの手伝いをする側が一人という、計画上の特徴を持つ配置で有ると言える。従って、計画の前提が「二人で調理をする」となっていない計画と位置づける事も可能なプランである。しかし、今後は夫婦二人がキッチン内部で共同作業する頻度を高める必要もあり、対面型キッチンだけでなく、アイランド型キッチンなどの計画も必要であることも見えて来た。

以上のことから、男性の家事への参加率が極めて低く、仮に家事を行うにも設計的に不具合が発生し、円滑に家事を行うことができない平面計画が多数存在することが分かった。住宅計画以外の問題点も多数あるが、建築的に男性の動線が確保できるよう改善することも、女性の社会進出をバックアップする要因の一つとして考えられる。

## 注

注 1) NHK 放送文化研究所 2013 年発表資料より 社会や政治に関する世論調査から

注 2) NHK 放送文化研究所 2011 年発表資料より 生活時間調査に関する世論調査から

注 3) 日本版総合的社会調査 (JGSS; Japanese General Social Surveys) 大阪商業大学が実施する、総合的社会調査

注 4) 総務省統計局 2002 ～ 2012 年発表資料より 労働力調査 (基本集計) 夫の就業

状態、妻の就業状態（正規、非正規を含む）別夫婦のいる世帯数から

- 注 5) 職業分類のうち、有職者を農林漁業者、自営業者、販売職・サービス職、技能職・作業職、事務職・技術職、経営者・管理職、専門職・自由業・その他とした。それに携わる女性の意味
- 注 6) 厚生労働省 平成 23 年人口動態統計月報年計（概数）の概況：結果の概要による
- 注 7) 国土交通省 2009 年発表資料より 販売マンションの平均床面積から
- 注 8) 経済産業省 2010 年発表資料より 40 代男性の平均的腹囲 85.4cm から引用
- 注 9) コンパクト建築設計資料集成 日本建築学会編（丸善株式会社）平成 17 年発行 p.45「人体計測値」による
- 注 10) コンパクト建築設計資料集成「住居」 日本建築学会編（丸善株式会社）平成 3 年発行
- 注 11) コンパクト建築設計資料集成「住居」 p.150 及び p.152 より
- 注 12) コンパクト建築設計資料集成「住居」 p.152 の解説に「平行型の台同士のアキ寸法は 120cm 程度でないと 2 人が背中合わせの作業ができず、1 人で使うには離れすぎることになるので注意が必要である」とある
- 注 13) ガス機器の設置基準では 80cm 以上とされており、建築基準法第 20 条の 3 第 2 項により 1 m 以内とされている
- 注 14) コンパクト建築設計資料集成「住居」 p.152 より

## **Module of housework space for contemporary town houses — Study of house planning for housework to share equally —**

Mai UTSUMIYA \* ,Shugo MAEDA \*

Kyushu Women's University

Department of Human Life Studies

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, 807-8586, Japan

### **Abstract**

Many study and proposal for several environment of around women, for example the actions for women's advance into society by government, have been published. Culture and social environment; gender social backgrounds, working rules, marriage, child rearing and cultural background, of appanage and historical environment have been studied mainly.

But it has not been studied that recent house planning is fit for housework when men work instead of women. The dimensions and module of a contemporary houses made by various human engineering have been formed as house-works in home are done for women. Human engineering made by men's body must be arranged different instead of women's.

The aim of this study is to clear the reality of housework sharing and to reconfirm module of housework space whether or not to be fit for contemporary town house plan which plan is pick up for average house plan.

Key words : house working space, house planning, gender,  
double income, house working share